

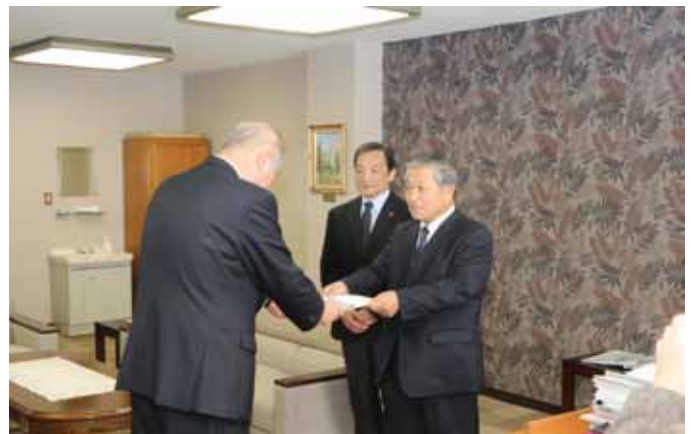


検討市民委員会からの提言を受けました

士別市本庁舎の整備にあたっては、まちづくり基本条例や市民参加条例に基づき、各団体や市民の意見を反映するため「士別市本庁舎整備検討市民委員会」（神田壽昭委員長）を設置し、検討を進めてきました。

検討にあたっては、6月26日に第1回検討市民委員会を開催し、以降6回の協議により現庁舎の課題や新庁舎に求める機能、事業費の上限額を市の総合計画に定める33億円とした場合の整備手法（改修・改築・分散化）について議論を重ねてきました。

これまでの議論内容をもとに取りまとめた整備手法や導入機能などの中間提言が、市長に提出されました。



11月25日に、神田委員長から牧野市長へ中間提言書が手交されました

第1回 6/26	第2回 8/4	第3回 8/19	第4回 9/30	第5回 10/27	第6回 11/16
委嘱状交付 今後のスケジュール	意見交換 (ワークショップ)	意見交換	事業費 比較検討	意見交換 (グループ討議)	中間提言に向けた意見集約

検討市民委員会からの中間提言は、次の内容です。

提言 その1 整備手法

現地改築と分散化による質の高い市民サービスの提供

「改築と分散化の併用」によって整備を進めることが望ましい。

新庁舎で有すべき機能、庁舎外へ分散する機能を十分精査するとともに、窓口などの市民スペースはより利用しやすいものとなるよう検討すべき。また、建築コストの動向に十分注視し、限られた事業費のなかで、最大限の市民サービス向上をめざすことが必要。

誰もが利用しやすい窓口機能の導入

バリアフリー化はもとより、総合案内やワンストップ窓口、ワンフロアでのサービス提供など、市民がわかりやすく利用しやすい窓口機能を導入すること。



総合案内窓口の事例
(愛知県小牧市役所)

市民に親しまれる憩いと活動の場の創出

子どもからお年寄りまで、気軽に立ち寄れる場所や情報発信スペース、サークル活動・市民コンサート等の地域イベントが開催できる場所があることが望ましい。そのためには、議場や会議室の多目的利用も検討すべき。

市民の安全と安心を守る防災拠点としての施設づくり

大規模災害時にも確実に機能する安全・安心な庁舎とすべき。

消防庁舎は、災害発生時における市行政との連携体制の確保のため、現庁舎同様、同一敷地内での整備が望ましい。

将来変化に対応できる機能的・効率的な構成

将来的な人口減・職員減、財政状況や物価高騰を見据え、必要最低限の機能を備えたコンパクトな施設規模とすべき。あわせて、土別市らしさを示す施設とすることが望ましい。

まちの活性化を促す拠点づくり

商店街の空き店舗など、既存施設を有効活用し、街なかの活性化に寄与するような機能分散についても検討を進めるべき。

今後の取り組みについて

健全な財政運営の確保

庁舎整備の財源は「合併特例債」を活用した場合でも、総合計画で予定されている33億円が加わると、市の実質公債費比率は20%に近づく。よって、今後の大型投資事業等については慎重に検討し、健全な財政運営の確保に努めること。

市民への情報提供と市民からの意見聴取

基本計画の素案がまとまり次第、広く市民に周知を図るとともに、パブリックコメントの実施などにより、市民からの意見聴取を図るように努められたい。

提言を反映した素案作りとフィードバック

今後、庁舎整備を進めるにあたり「基本計画」の策定が進められることになるが、その素案がまとまり次第、当委員会にも提示していただきたい。

市では、本提言を踏まえ、引き続き検討を行い、庁舎の整備に向けた基本計画の策定をすすめます。

【発行・お問合せ先】 土別市役所総務部総務課
〒095-8686 土別市東6条4丁目1番地
TEL: 0165-23-3121 FAX: 0165-22-1934
<http://www.city.shibetsu.lg.jp/>